

# バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

## Interview ①

奈良女子大学 研究院自然科学系化学領域 助教

**本田 裕樹**

出身大学・卒業年度：早稲田大学大学院先進理工学研究所応用化学専攻 2012年3月 博士後期課程修了 博士(工学)

博士論文タイトル：Aspergillus nigerによるクエン酸生産の視覚的解析への蛍光タンパク質インジケータの応用



### 「現在の仕事について」

#### ◆担当職務

研究，研究指導，講義，学生実験を担当しています。

#### ◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

- ・2010年4月～2013年3月 早稲田大学(助手)  
博士後期課程学生として指導を受けながら，助手として採用していただき，学生実験や演習科目を担当しました。
- ・2013年4月～2014年3月 九州大学(ポスドク①)  
好熱菌由来酵素への変異導入による活性向上に取り組みました。
- ・2014年4月～2017年3月 九州大学(ポスドク②)  
カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所で無機光触媒と生体触媒とを組み合わせた新規な水素生産系の開発に取り組みました。無機固体や材料化学の研究室で，バイオ系の実験は自分だけ，また所属研究者の半数以上が外国の方という特異な環境でよい経験ができました。
- ・2017年4月～ 奈良女子大学(助教)  
奈良女子大学に採用され，学生と一緒に新しい研究テーマをはじめています。結果が楽しみです。

#### ◆現在の会社・組織(アカデミアを含む)の魅力

勉強が趣味と言っている学生がいるほど意欲あふれる学生が多く(本当に!)，私も負けられません。

#### ◆現在の就職を決めた理由

研究者や博士というものが「カッコいい(と思っている)」から，自分も「カッコいい」人になりたかった。

#### ◆将来設計(描けるキャリアパス)

研究を続けていけたらよいと思います。

#### ◆挑戦したいと思っていること

専門分野といえるものをもう一つ増やす。

#### ◆社会人として一番感動したこと

博士課程の時のある実験が最初にうまくいった瞬間の感動をこえる感動はまだないので求めています。

#### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

困難(と言っても楽しかった気もしますが)で思い出すのはポスドク②の時です。最高の研究環境を用意された一方で，毎年の成果への要求も高く，1年半くらいは何もできず苦しかったです。乗り越えた，というか一応の成果が出始めたのは，学生時代に学んだ実験手法や考え方をもう一度振り返り，それらを改めて新しい実験に取り入れてからです。出身研究室での教えに大変助けられました。

#### ◆仕事のプロになるコツ

自分の担当部分で妥協しない(しても高いレベルで)。

#### ◆博士力，どこで発揮していますか？

博士には「ものしり」という意味もあるからね，とある先生に言われました。どんな場所でも自ら課題設定し，解決方法をみつけ，成果につなげる，そういうことは「ものしり」でないと難しいと思います。ものしり博士になりたい。

### 「人生について」

#### ◆何のために働くのですか？

研究者や博士に対して「カッコいい」というイメージを持ち続けており，そういった自分なりの「カッコいい」追求のため。もちろんその追求の過程で得られた知識や能力を社会に還元するのは大前提だと思っています。

#### ◆自分にとって，お金を稼ぐ意味

趣味だけではお金をもらえないので，研究活動を通じて何か社会の貢献できた分だけお金がついてくればよいです。

### ◆ワークライフバランスで工夫していること

やる気が漲っている時にとにかく一気に集中して仕事をします。実験などで深夜まで追い込んで疲れ果ててボロボロになった時の、寿命を削っているような感覚がちょっと好きです、たまにはですが…。やる気の待ち時間は長めです。

### ◆現在の夢&将来の展望

とにかく目の前のことをこなしてステップアップ。

## 「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること  
勉強しておけばよかった。化学だけではなく、哲学とか

思想とか歴史とか美学とか政治とか経済とか……。学生時代は望めばさまざまな講義を受けられましたが、今から同じレベルで知識を得ようとすれば膨大なお金と時間がかかりそうです。

### ◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

今回は自分自身を振り返る良い機会でした。何か高尚な思いよりも、「かっこいい」と思ったから研究者や博士を目指した気がします。とりあえず「かっこいい」的なものを追求するというのもよいものではないかな、と思います。

連絡先 E-mail: honda@cc.nara-wu.ac.jp

## Interview ②

地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所  
研究開発部研究支援課（主事）

小林 慶一



出身大学・卒業年度：早稲田大学大学院先進理工学研究科・2013年度 博士後期課程修了

博士論文タイトル：代謝工学を利用したクエン酸生産系状菌*Aspergillus niger*における有機酸生産の改変

## 「現在の仕事について」

### ◆担当職務

研究支援，研究室の運営に係る事務など。

### ◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

- (1) 2014年4月 早稲田大学（助手）  
…微生物やその酵素，代謝系に関する研究
- (2) 2016年4月（公財）神奈川県立産業技術アカデミー  
2017年4月（地独）神奈川県立産業技術総合研究所\*  
（\*神奈川県産業技術センターとの統合）  
…上記「担当職務」と同

### ◆そこでのやりがい

- (1) 微生物やその酵素のまだ明らかになっていない機能を検証し，ものづくりに役立てようという取組み。
- (2) 研究者と連携して，新技術の実用化を目指していくところ。

### ◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

- ・大学などの有望な研究シーズを発掘し，基礎研究から企業などへの技術移転や事業化などを目指した一貫した支援を行っているため，研究のあらゆるステージに関わることができる点。
- ・単純な事務仕事だけではなく，研究者（研究室）とま

さしく二人三脚でイノベーション創出へ向けて協働していける点。

### ◆現在の就職を決めた理由

- ・学生時代を含め研究活動をしていくなかで，その円滑な進行には実は色々な方のサポートがあつてのことであつたことに気づくとともに，その重要さを感じたため。
- ・微々たるものながら研究者側として培った経験や感覚を活かしながら，今までとは違った角度で研究活動に関わってみたいと思ったため。

### ◆将来設計（描けるキャリアパス）

他部署も経験して研究支援の仕事を極め，技術そのものや研究者の立場も含めて総合的に「研究活動」を理解し，それに関われる人材になりたいと思います。

### ◆挑戦したいと思っていること

もし機会があれば，海外の研究機関や企業と連携したグローバルな仕事にも挑戦してみたいと思います。

### ◆社会人として一番感動したこと

正直に言えば，初任給を貰ったときです。

### ◆仕事のプロになるコツ

むしろその「コツ」を教えて欲しいです。が，“プロ”

になれるように、人の話は素直に聞き、周りの方をよく観察して学びながら、よりよい（仕事の）やり方を考え続けるように心掛けています。

#### ◆博士力、どこで発揮していますか？

どこ、というより、ほぼすべての場面で「博士力」が役立っているのかと思います。研究者として過ごした時に培われたものや経験のすべてがあつてこそ、分野どころか職種さえもまったく異なる今の仕事もやっていける気がします。

### 「人生について」

#### ◆何のために働くのですか？

現実的には「生活のため」だと思いますが、仕事を通して何らかの形で社会貢献することで、現在に至るまでに出会ってきた人達から受けてきた恩に（間接的に）報いることになるため、と思います。

#### ◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

（これも突き詰めると「生活のため」「生きるため」が現実的な回答な気がします）自身の仕事の価値のバロメーターかなと思います。

#### ◆ワークライフバランスで工夫していること

休日はできるだけ仕事のことは考えないようにして、

ON・OFFをはっきりさせるように気を付けています。

#### ◆現在の夢

いつかまた、大学で（他分野を）勉強してみたいと思っています。

#### ◆将来の展望

今はまだ指示される仕事をとにかく遂行する日々ですが、研究者側、研究支援者側の両方の立場を俯瞰して、必要な仕事を見つけ出せる、創り出せるようになればいいなと思います。

### 「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること  
専門分野だけでなく、また学問に限らず、もっと幅広く色々勉強しておけば良かったなと思います。

#### ◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

「目先のことに捕らわれず、将来を見据えて」とは言われますが、とりあえず今、目の前にあることに一生懸命取り組むことも大事なことだと思います。

---

連絡先 E-mail: k-kobayashi@newkast.or.jp